

2018 年度大学院経営学研究科経営史演習の打ち合わせ

1.今年度の演習の持ち方について

(シラバスより)

「本演習では、現在および将来の企業経営のあり方を模索するために、過去の企業経営の事例を研究します。その際、以下の点に留意します。第1に、「経営史」のうちの「歴史」について検討します。ここで問われる「歴史」とは、年表のような編年史ではありません。提示者の意図のもとに構成された「歴史的事実」＝ストーリーをもった物語です。そうしたストーリーをもった物語、「歴史的事実」をどのようにして作るのか、どのような歴史的必然性があるのかを考えていきます。最近、グローバル・ヒストリーなるもの、地域史に対する関心が高まっています。こうした歴史学の現状にも留意します。第2に、企業経営をめぐる社会的な環境にも留意します。企業経営はそれ自体が単独に存在するわけではありません。企業を取り巻く社会的な環境に影響されるからです。以上のうえで、第3に、「経営史」のうちの「企業経営」について検討します。特に、革新的とされた経営行動を意識します。特に、「モノづくり」の面に留意します。

今年度も、これまでと同様に優れた経営史（経済史も含まれます）に関する古典，方法に関わる議論も取り上げて検討するとともに、現在の企業経営の動向を知るため、経営戦略に関する研究も取り上げて議論します。」

2.輪読対象の文献と担当者の決定

文献の報告としては、すべて内容を網羅するのではなく、取り上げる箇所を絞り、ポイントを絞ってレジュメを作成して報告すること。

(事前にどの箇所を、つまりどの章を読めばいいのかをお伝えください)

月	日	曜日	時限	内容・文献	報告者	司会者
4	16	月	2	ガイダンス	-	-
5	1	火	2	橘川(2017)	中瀬	中瀬
5	14	月	2	溪内(1998)	柳	中瀬
5	28	月	2	佐竹(2017)	楊	柳
6	11	月	2	橋本(2018)	藤谷	楊
6	25	月	2	宮本・岡部・平野(2014)	甘・王	藤谷
7	9	月	2	小野塚(2018)	白浜	甘・王
7	23	月	2	坂本(2017)	花木	白浜

3.参考文献

次回の文献

橘川武郎（2017）『土光敏夫 ビジョンとバイタリティをあわせ持つ改革者』PHP 研究所

①歴史的方法

溪内謙（1995）『現代史を学ぶ』岩波新書

Edward Hallet Carr (1961) What Is History?, London: Macmillan (清水幾多郎訳『歴史とは何か』岩波新書, 1962年)

②現代日本の現実

橋本健二（2018）『新・日本の階級社会』講談社現代新書

アンドルー・ゴードン・瀧井一博（2018）『創発する日本』弘文堂

③アジア経済の実相

末廣昭（2017）『新興アジア経済論』岩波書店

④経済史・経営史

深尾京司・中村尚史・中林真幸（2018）「現代1 日中戦争期から高度成長期(1937-72) (岩波講座 日本経済の歴史 第5巻)』岩波書店

小野塚知二（2018）『経済史 いまを知り、未来を生きるために』有斐閣

宮本又郎・岡部桂史・平野恭平（2014）『1からの経営史』碩学舎

⑤生産システム、中小企業の課題

坂本清（2017）『熟練・分業と生産システムの進化』文眞堂

佐竹隆幸（2017）『現代中小企業のソーシャル・イノベーション』同友館

4.その他

単位認定等について

前期博士課程の分野専門演習科目の研究報告書：8000字以上

後期博士課程の分野専門演習科目の研究報告書：12000字以上

提出時期は2月初旬、詳しい日程と提出先は1月初旬、ご注意ください。